

顎口腔領域の画像診断 ——顎口腔領域の coronal scan の変法——

丸山 清, 長内 剛, 筒井 稔

松本歯科大学 歯科放射線学講座 (主任 丸山 清 教授)

頭頸部の CTscan としては、一般に体軸に垂直な断面即ち水平断 (horizontal, or axial) が使われることが多いが、症例によってはガントリー内で体位を変換して、冠状断 (coronal scan) 又は矢状断 (sagittal scan) を撮る事も行われている。

ここに供覧する症例は、スキャノグラム (図 1. a, b) に示される如く、頭部を後方に約45°傾けた特異な冠状断のシリーズ (図 1. b の A~C) から頭頂・前床突起・硬口蓋・オトガイを通る断面 (図 1. b の B) をとり出したものである。

本 scan 像 (図 2. a, b) の特徴は、口腔は勿論、鼻腔・篩骨洞・蝶形骨洞が比較的よく描き出され、且つ図示されていないが、上鼻甲介も観察出来る点にある。

これに平行な scan level のシリーズを用いれ

ば、Le Fort I~II型の外傷例で上顎洞後壁・翼状突起等深部に達した骨折線の走行を追跡したり、上顎部悪性腫瘍で問題となる後上方への浸潤、例えば鼻咽腔や篩骨洞への浸潤を、1枚の scan 像の上で把握することも可能である。

文 献

- 1) Takahashi, S. (1969) An Atlas of Axial Tomography and its Clinical Application, 40-50. Springer Verlag, Berlin.
- 2) 平敷淳子, 亀井民雄 (1985) 頭頸部の CT 診断アトラス, 65-64. 朝倉書店, 東京.
- 3) Rohen, J. W., 横地千仞共著 (1986) Collor Atlas of Anatomy, 116-120. 医学書院, 東京.
- 4) Ferner, H. 編: 小川昇三, 石川浩一訳 (1971) 臨床応用局所解剖図譜, 第三版, 221-225. 医学書院, 東京.

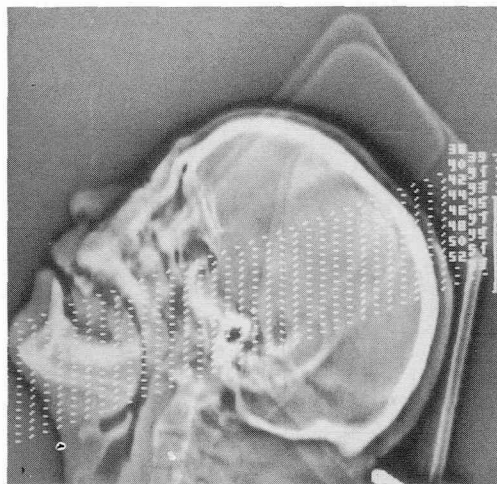


図1 a : scanogram

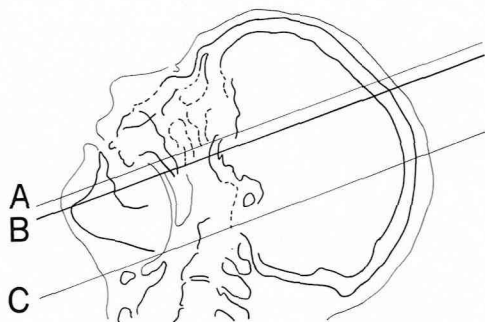


図1 b : scan level

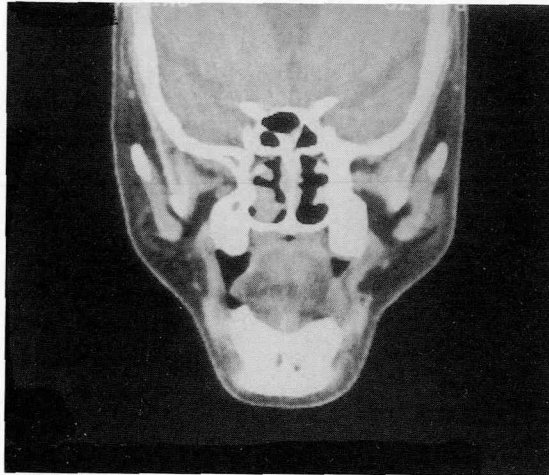


図2 a : coronal scan (level B)

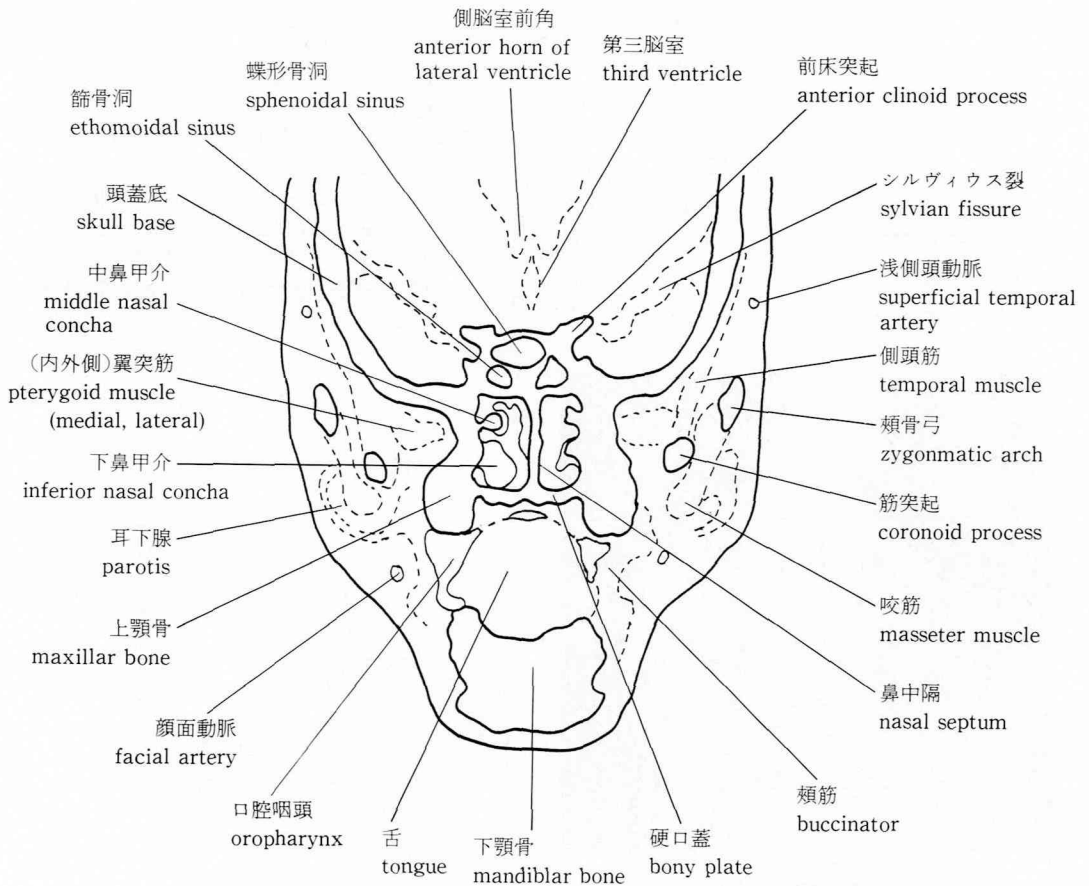


図2 b : 2 a のトレース像